



SystemGlobe  Ver.1

The logo for DianaScope, featuring the word "DianaScope" in a stylized, orange, cursive font. The letter "D" is large and blue, with a white silhouette of a person's head and shoulders inside it. The word "Scope" is in orange. The logo is positioned to the right of the text "SystemGlobe" and to the left of "Ver.1".

コマンドラインインターフェース

Document Rev.1.01

目次

表紙.....	1
目次.....	2
商標について.....	4
本書について.....	5
第1章 コマンドラインインターフェースについて.....	6
1.1 動作環境.....	6
1.2 実行方法.....	7
1.2.1 コマンド実行時の注意事項.....	7
1.3 実行結果.....	7
1.4 実行例.....	8
第2章 コマンド一覧.....	9
2.1 グループ管理系コマンド.....	9
2.1.1 getGroupList.....	9
2.1.2 createGroup.....	9
2.1.3 deleteGroup.....	9
2.1.4 getGroupServerList.....	10
2.1.5 setGroupProperty.....	10
2.1.6 getGroupProperty.....	11
2.1.7 getGroupFaultCondition.....	11
2.1.8 groupPowerOn.....	12
2.1.9 groupPowerOff.....	12
2.1.10 groupReset.....	13
2.1.11 groupPowerCycle.....	14
2.1.12 groupShutdownOs.....	14
2.1.13 groupDumpSwitch.....	15
2.1.14 groupSetPowerRestoreDelay.....	16
2.2 サーバ管理系コマンド.....	17
2.2.1 getServerList.....	17
2.2.2 findNewServer.....	18
2.2.3 findNewServerNetAddr.....	19
2.2.4 createServer.....	19
2.2.5 deleteServer.....	20
2.2.6 checkConnection.....	20
2.2.7 findRegServer.....	21
2.2.8 setServerPropertyToDefault.....	22
2.2.9 setServerProperty.....	22
2.2.10 changeServerGroup.....	24
2.2.11 getServerGroup.....	24
2.2.12 setCurrentPort.....	24
2.2.13 getServerProperty.....	25
2.2.14 getServerInfo.....	25
2.2.15 getDeviceId.....	26
2.2.16 getGuid.....	26
2.2.17 getComputerName.....	27
2.2.18 getProductName.....	27
2.2.19 getSoftwareInfo.....	28
2.2.20 changeShutdownPolicy.....	28
2.2.21 getShutdownPolicy.....	29
2.2.22 setPowerRestoreDelay.....	30
2.2.23 getPowerRestoreDelay.....	31

2.2.24	changeBmcInfo.....	31
2.2.25	getBmcInfo	35
2.2.26	changeAuthKey	36
2.2.27	getAgentLog	36
2.2.28	testAlert	37
2.2.29	getTestAlertStatus.....	38
2.2.30	getFaultCondition	39
2.2.31	resetFaultCondition	39
2.2.32	getPowerStatus	40
2.2.33	getStatusLamp	40
2.2.34	getPanelInfo.....	41
2.2.35	powerOn	41
2.2.36	powerOff.....	42
2.2.37	reset.....	42
2.2.38	powerCycle.....	43
2.2.39	shutdownOs	43
2.2.40	dumpSwitch.....	44
2.2.41	clearSel	44
2.2.42	identifyChassis.....	44
2.2.43	getIpmiInfo	45
2.2.44	getSensorList	45
2.2.45	getSensorStatus.....	46
2.2.46	getConsoleLog.....	46
2.3	通信管理系コマンド	47
2.3.1	connect.....	47
2.3.2	disconnect	47
2.3.3	getConnectionStatus	47
2.4	環境設定系コマンド	48
2.4.1	setOption.....	48
2.4.2	getOption	49
2.4.3	getPermitIpAddrList	49
2.4.4	isPermitIpAddr	49
2.4.5	addPermitIpAddr	50
2.4.6	removePermitIpAddr	50
2.4.7	clearPermitIpAddr	50
2.5	ユーザ管理系コマンド	51
2.5.1	createUser	51
2.5.2	removeUser.....	51
2.5.3	getUserList	51
2.5.4	setUserProperty	52
2.5.5	getUserProperty	53
2.6	その他のコマンド	54
2.6.1	getApplicationLog	54
2.6.2	addLicenseKey	54
2.6.3	about	54
2.6.4	help	55

商標について

DianaScope は日本電気株式会社の商標です。EXPRESSBUILDER と ESMPRO、ExpressPicnic、CLUSTERPRO は日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、Pentium は米国 Intel Corporation の登録商標です。Xeon は米国 Intel Corporation の商標です。Datalight は Datalight,Inc.の登録商標です。ROM-DOS は Datalight,Inc.の商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。AT は米国 International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Adaptec とそのロゴは米国 Adaptec,Inc.の登録商標です。SCSI Select は米国 Adaptec,Inc.の商標です。LSI-Logic、MegaRAID、Power Console Plus は米国 LSI Logic Corporation の登録商標または商標です。Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標または商標です。DLT と DLTtape は米国 Quantum Corporation の商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows Server 2003 は Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition operating system の略です。Windows XP は Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft Windows XP Professional operating system の略です。Windows 2000 は Microsoft® Windows® 2000 Server operating system および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略称です。Windows NT は Microsoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0 および Microsoft® Windows NT® Workstation operating system version 3.51/4.0 の略称です。Windows Me は Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System の略称です。Windows 98 は Microsoft® Windows® 98 operating system の略称です。Windows95 は Microsoft® Windows® 95 operating system の略称です。DOS は MS-DOS®または ROM-DOS®の略です。

本製品には、Sun Microsystems 社から無償で配布されている JRE (Java Runtime Environment)、Apache Software Foundation から無償で配布されている Tomcat、および AT&T ケンブリッジ研究所から無償で配布されている VNC を含んでいます。これらの製品については、それぞれの使用許諾に同意した上でご利用願います。著作権、所有権の詳細については以下の LICENSE ファイルを参照してください。

Tomcat : <Tomcat をインストールしたディレクトリ>下の LICENSE

JRE : <JRE をインストールしたディレクトリ>下の LICENSE

■ ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については (4) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、サーバ管理ユーティリティ「DianaScope」のコマンドラインインターフェースを説明しています。

コマンドインターフェースをご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能や操作方法およびネットワークの機能や設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作や不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、管理対象サーバ全般について、汎用的に説明しています。管理対象サーバの製品別の注意事項や制限事項は、管理対象サーバに添付されているユーザズガイドまたは以下の URL を参照してください。

<http://www.sw.nec.co.jp/products/DianaScope>

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の 3 種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

- | | |
|--------------|---|
| 重要： | ソフトウェアや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。 |
| チェック： | ソフトウェアや装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。 |
| ヒント： | 知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。 |

■ DianaScope のその他の説明について

本書に記載されていない、DianaScope のその他の説明については、以下の文書を参照してください。

- **DianaScope のインストールおよび管理対象サーバのセットアップ**
「DianaScope インストールマニュアル」を参照してください。本書の前に必ずお読みください。
- **リモート管理可能な装置（管理対象サーバ）**
「DianaScope 管理対象サーバ一覧」を参照してください。
- **Web ブラウザからの操作方法**
DianaScope のオンラインヘルプを参照してください。

最新の情報は以下の URL を参照してください。

<http://www.sw.nec.co.jp/products/DianaScope>

第1章 コマンドラインインターフェースについて

DianaScope コマンドラインインターフェースは管理 PC からコマンドラインによって管理対象サーバの制御を行うことができるコマンドセットを提供します。

コマンドセットは Web ブラウザを利用して実行できる機能とほぼ同じ機能をカバーしています。

以下のコマンドがあります。

- **グループ管理系コマンド**
複数の管理対象サーバを一括管理するためのグループに関するコマンドです。
- **サーバ管理系コマンド**
リモート管理対象のサーバに関するコマンドです。
- **通信管理系コマンド**
管理対象サーバと WAN 接続やダイレクト接続で接続するための設定を変更できます。
- **環境設定系コマンド**
DianaScope Manager の設定を参照したり変更したりします。
- **ユーザ管理系コマンド**
Web ブラウザ上で DianaScope を使用するユーザを管理します。
- **その他のコマンド**

1.1 動作環境

DianaScope コマンドラインインターフェースは、DianaScope Manager が動作している PC (DianaScope サーバと呼びます) 上でのみ実行可能です。

DianaScope コマンドラインインターフェースを実行するためには、OS のユーザ権限が必要です。

Windows の場合：Administrator 権限

Linux の場合：root 権限

.....
ヒント：

- DianaScope Manager の動作環境については「DianaScope インストレーションマニュアル」を参照してください。
-

1.2 実行方法

コマンドプロンプト(DOS 窓、Linux のシェル)から以下のように入力することで、コマンドの実行を行います。

```
dscli CommandName [Option, ...]
```

dscli	DianaScope コマンドラインインターフェースのコマンドであることを示します。
CommandName	実行したいコマンド名を入力します。
Option	各コマンドで定められているオプションパラメータを入力します。

1.2.1 コマンド実行時の注意事項

以下にコマンドを入力するときの注意事項を示します。

(1) 特殊文字を入力する場合

Option に空文字列を入力する場合や、&などの特殊文字を入力する場合は、入力文字列をダブルコーテーションで囲ってください。入力例を示します。

例 1:空文字列の入力

```
dscli serverProperty MyServer SERVER_COMMENT ""
```

例 2:特殊文字の入力

```
dscli serverProperty MyServer CFG_SERIAL_INIT "ATE1Q0V1X4&D2&C1S0=0"
```

1.3 実行結果

すべてのコマンドは終了ステータスを返します。またエラーが発生した場合は、エラーメッセージを返します。

すべてのコマンドの終了ステータスは以下の通りとなっています。

0 : 正常終了
0 以外 : 異常終了

各コマンドでエラーが発生した場合、終了ステータスとして 0 以外の値が返され、エラーメッセージが表示されます。またメッセージによってはエラー要因メッセージが後に続きます。

.....
ヒント:

- シェルスクリプトでコマンドを実行する場合、Windows では「ERRORLEVEL」、Linux では「\$?」で終了ステータスを確認できます。
-

1.4 実行例

1 台の管理対象サーバを LAN 経由で管理するためのコマンド発行手順を示します。

- (1) addLicenseKey で登録可能な管理対象サーバ数を拡張するためのライセンスキーを登録します。
- (2) createGroup で グループを作成します。
- (3) createServer で 管理対象サーバを登録します。
- (4) checkConnection で管理対象サーバの接続チェックを行います。

接続チェックが正常終了すると、DianaScope で管理対象サーバをリモート管理できるようになります。

第2章 コマンド一覧

2.1 グループ管理系コマンド

2.1.1 getGroupList

Syntax:

```
getGroupList
```

Description:

登録されているグループ名の一覧を表示します。

Output:

グループ一覧を表示します。表示例を示します。

```
Group1
Group2
Group3
:
:
```

2.1.2 createGroup

Syntax:

```
createGroup GroupName
```

Description:

新しいグループを作成します。グループの最大数は登録できる管理対象サーバの数と同じです。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

最大 20 文字までの名前を入力できます。

2.1.3 deleteGroup

Syntax:

```
deleteGroup GroupName
```

Description:

指定されたグループを削除します。グループに所属する管理対象サーバもすべて削除します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

2.1.4 getGroupServerList

Syntax:

`getGroupServerList GroupName`

Description:

指定されたグループに所属する管理対象サーバの一覧を表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

指定されたグループに所属する管理対象サーバの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Server1
Server2
Server3
:
```

2.1.5 setGroupProperty

Syntax:

`setGroupProperty GroupName PropertyName Value`

Description:

指定されたグループのグループプロパティを設定します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。

OptionName	意味	Value 指定方法	default
GROUP_NAME	グループ名です。	16文字まで	
GROUP_COMMENT	グループに関する説明です。	100文字まで	

Value

新たに設定する値を指定します。

2.1.6 getGroupProperty

Syntax:

`getGroupProperty GroupName PropertyName`

Description:

指定されたグループのグループプロパティを表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティのキー名を指定します。グループプロパティの一覧については2.1.5「setGroupProperty」を参照してください。

Output:

指定されたグループプロパティを表示します。

2.1.7 getGroupFaultCondition

Syntax:

`getGroupFaultCondition GroupName`

Description:

指定されたサーバグループの障害状態を表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

指定されたサーバグループの障害状態を表示します。障害状態は以下の3種類です。

NORMAL	正常
WARNING	管理対象サーバに以下の異常が検出された。 - DC-OFF - ステータス LED 点灯・点滅 - 障害メッセージのコンソールへの出力
ERROR	通信障害発生

2.1.8 groupPowerOn

Syntax:

`groupPowerOn GroupName [u]`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの電源を ON にします。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

u

u を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。リモート FD ブートが設定されている場合は指定された FD イメージを起動します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.9 groupPowerOff

Syntax:

`groupPowerOff GroupName`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの電源を強制的に OFF にします。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.10 groupReset

Syntax:

`groupReset GroupName [u]`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバを強制的にリセットします。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

u

u を指定すると、リセット後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。リモート FD ブートが設定されている場合は指定された FD イメージを起動します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.11 groupPowerCycle

Syntax:

`groupPowerCycle GroupName [u]`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

u

u を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。リモート FD ブートが設定されている場合は指定された FD イメージを起動します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.12 groupShutdownOs

Syntax:

`groupShutdownOs GroupName`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバ上の OS をシャットダウンします。LAN 経由で実行する場合は、管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに実行できます。ダイレクト接続またはモデム経由接続で実行する場合は、ESMPRO/ServerAgent に OS シャットダウンを指示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.13 groupDumpSwitch

Syntax:

`groupDumpSwitch GroupName`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの DUMP スイッチを入れます。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。

表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.14 groupSetPowerRestoreDelay

Syntax:

```
groupSetPowerRestorDelay GroupName DelayTime [Policy]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバについて、管理対象サーバが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。

電源オプション設定では、AC-LINK 設定、および、AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して DC ON する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」が「電源オプション設定」機能をサポートしていない場合は実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
-

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

DelayTime

AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。

-1 を指定した場合は、現在の値を変更しません。

Policy

AC-LINK の Policy を設定します。設定可能な値は 3 種類です。

- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 100 | STAY_OFF | AC ON 時、DC OFF 状態になります。 |
| 101 | LAST_STATE | DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。
DC ON 中に AC FF された場合は、AC ON 時、「Delay Time」で設定された時間後に DC ON 状態になります。 |
| 102 | ALWAYS_POWER_ON | AC ON 時、DelayTime option で設定された時間後に DC ON 状態になります。 |

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.2 サーバ管理系コマンド

2.2.1 getServerList

Syntax:

getServerList

Description:

DianaScope 上に登録された管理対象サーバの一覧を表示します。

Output:

DianaScope 上に登録された管理対象サーバの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Server1  
Server2  
Server3  
:  
:
```

2.2.2 findNewServer

Syntax:

```
findNewServer StartIpAddr EndIpAddr
```

Description:

DianaScope 上に登録されていない管理対象サーバをネットワーク上から検索します。指定された IP アドレス範囲の管理対象サーバを検索します。

ヒント:

- findNewServer、findNewServerNetAddr でみつかった管理対象サーバを DianaScope に登録する場合、createServer コマンドを使用します。2.2.4「createServer」を参照してください。
-

Options:

StartIpAddr

IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。

Output:

発見した管理対象サーバの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Status: SUCCESS

No.1
1st IP Address      : 192.168.14.18
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.18
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 84ee20b0-84a1-d511-0080-a0ff94470300

No.2
1st IP Address      : 192.168.14.19
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.19
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 00004c79-45c0-0180-0010-f57f80d8cef8
:
:
```

2.2.3 findNewServerNetAddr

Syntax:

`findNewServerNetAddr NetAddr NetMask`

Description:

DianaScope 上に登録されていない管理対象サーバをネットワーク上から検索して表示します。指定されたネットワークアドレスにより管理対象サーバを検索します。

.....
ヒント:

- `findNewServer`、`findNewServerNetAddr` でみつかった管理対象サーバを DianaScope に登録する場合、`createServer` コマンドを使用します。2.2.4「`createServer`」を参照してください。
-

Options:

NetAddr

ネットワークアドレスを指定します。

NetMask

ネットワークマスクを指定します。

Output:

発見した管理対象サーバ一覧の表示します。表示内容は `findNewServer` コマンドと同じです。2.2.2「`findNewServer`」を参照してください。

2.2.4 createServer

Syntax:

`createServer ServerName GroupName AuthKey [IpAddr1] [IpAddr2]`

Description:

DianaScope に新規に管理対象サーバを登録します。登録できる管理対象サーバ数は購入したライセンス数によります。

Options:

ServerName

DianaScope 上で管理対象サーバを管理するための名前（サーバ名）を指定します。
最大 15 文字までの名前を入力できます。

GroupName

管理対象サーバの所属グループを指定します。

AuthKey

管理対象サーバの認証キーを指定します。16 文字までの認証キーを指定してください。
管理対象サーバの BMC コンフィグレーションで設定した認証キーを入力してください。

IpAddr1

管理対象サーバの BMC の IP アドレスを指定します。管理対象サーバと LAN 経由で通信しない場合、この option は省略できます。

IpAddr2

管理対象サーバの BMC の予備の IP アドレスを指定します。この option は省略できます。

.....
ヒント:

- サーバプロパティのその他の項目は、2.2.9「`setServerProperty`」で設定してください。
-

2.2.5 deleteServer

Syntax:

`deleteServer ServerName`

Description:

DianaScope Manager に登録された管理対象サーバを削除します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

2.2.6 checkConnection

Syntax:

`checkConnection ServerName [new]`

Description:

管理対象サーバの BMC と通信して接続確認を行います。また、リモート管理のために必要な情報を管理対象サーバから収集します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

new

new を指定すると、管理対象サーバから GUID(管理対象サーバを識別するための ID)を再取得します。

.....
ヒント:

- 指定された管理対象に対して一度も接続確認を行っていない場合は、*new* を指定しなくても必ず GUID を取得します。
-

2.2.7 findRegServer

Syntax:

```
findRegServer ServerName(1) [ServerName(2)]... [ServerName(N)]
```

Description:

登録済みの管理対象サーバをネットワーク上から検索します。サーバプロパティで指定されたサブネットマスクの範囲で検索を実行します。管理対象サーバの IP アドレスが変更されていた場合は、サーバプロパティの IP アドレス設定を更新します。

このコマンドは接続チェックを実施済みで、かつ、接続形態に LAN が選択されている管理対象サーバを検索できます。

Options:

ServerName

検索する管理対象サーバの名前を指定します。この option は複数指定できます。

Output:

発見した管理対象サーバの一覧を「Find Server」として表示します。発見できなかった管理対象サーバの一覧を「Stray Server」として表示します。

2.2.8 setServerPropertyToDefault

Syntax:

setServerPropertyToDefault *ServerName Connection*

Description:

管理対象サーバのサーバプロパティを初期値に戻します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

PropertyName

初期値に戻すサーバプロパティの名前を指定します。サーバプロパティの一覧については、2.2.9「setServerProperty」を参照してください。ALL を指定した場合は、全てのサーバプロパティを初期値に戻します。

2.2.9 setServerProperty

Syntax:

setServerProperty *ServerName PropertyName Value*

Description:

管理対象サーバのサーバプロパティを変更します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前です。設定可能なプロパティの一覧を示します。

PropertyName	意味	Value 指定方法	初期値
CONSOLE_LOG_ENABLE	コンソールログ取得の有効/無効を示します。コンソールログは、リモートコンソールの画面データをテキスト形式で保存する機能です。	1: 有効 0: 無効	1
CONSOLE_LOG_SIZE	コンソールログの最大容量を KB 単位で指定します。	数値	64
CONSOLE_LOG_KEEP_CONNECTION	Web ブラウザでリモートコンソールを開いていない時でもコンソールログ取得を行う機能の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	0
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_MONITORING	コンソールログに対する障害メッセージ監視の有効/無効を示します。障害メッセージ監視は、コンソールログに記録される各行の先頭に障害メッセージ識別子が検出された場合に、その管理対象サーバの FaultCondition をセットする機能です。	1: 有効 0: 無効	1

PropertyName	意味	Value 指定方法	初期値
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_IDENTIFIER	障害メッセージ監視のための文字列（障害メッセージ識別子）を指定します。	20 文字まで	</BP>
RC_SERVER_REMOTE_BOOT	ユーティリティブートで使用するリモートブートメディアを示します。	0: 未使用 2: リモート FD	0
RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE	リモート FD ブートに使用する FD イメージファイルを指定します。	ファイル名(パス指定を含む)	
SERVER_NAME	管理対象サーバの表示名です。	15 文字まで	
SERVER_COMMENT	管理対象サーバに関する説明です。	100 文字まで	
SERVER_AUTHKEY	管理対象サーバの BMC と通信するための認証キーです。	16 文字まで	
SERVER_CURRENT_PORT_TYPE	DianaScope Manager から管理対象サーバへの通信の接続形態を指定します。	0: LAN 1: ダイレクト 2: モデム	0
SERVER_IP_1	LAN 接続のための IP アドレスです。	IP アドレス形式	
SERVER_IP_2	LAN 接続のための予備の IP アドレスです	IP アドレス形式	
SERVER_CURRENT_IP	LAN 接続のための現在使用中の IP アドレスです。	IP アドレス形式	
SERVER_SUBNETMASK_1	LAN 接続のサブネットマスクです。	IP アドレス形式	
SERVER_SUBNETMASK_2	LAN 接続の予備の IP アドレスのサブネットマスクです	IP アドレス形式	
SERVER_PHONE_NUMBER	モデム接続を行うための電話番号です。	19 文字まで	

Value

新たに設定する値を指定します。

重要:

- 管理対象サーバがリモート FD ブート機能をサポートしていない場合、プロパティ「RC_SERVER_REMOTE_BOOT」を設定してもリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

ヒント:

- 管理対象サーバが所属するグループを変更する場合は2.2.10「changeServerGroup」コマンドを使用してください。

2.2.10 changeServerGroup

Syntax:

`changeServerGroup ServerName OldGroupName1 NewGroupName2`

Description:

管理対象サーバの所属グループを変更します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

OldGroupName

管理対象サーバが現在所属しているグループの名前を指定します。

NewGroupName

管理対象サーバを現在所属させていグループの名前を指定します。

2.2.11 getServerGroup

Syntax:

`getServerGroup ServerName`

Description:

管理対象サーバが所属するグループ名を表示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

管理対象サーバが所属するグループ名を表示します。

2.2.12 setCurrentPort

Syntax:

`setCurrentPort ServerName Connection`

Description:

管理対象サーバとの接続形態を変更します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Connection

管理対象サーバと通信を行う接続形態を指定します。

LAN (または 0)	LAN 経由で接続
SERIAL (または 1)	シリアルポートをダイレクト接続
MODEM (または 2)	モデム経由で接続

2.2.13 getServerProperty

Syntax:

```
getServerProperty ServerName PropertyName
```

Description:

管理対象サーバの指定されたサーバプロパティを表示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

PropertyName

取得するサーバプロパティの名前です。2.2.9「setServerProperty」を参照してください。

Output:

管理対象サーバの指定されたサーバプロパティを表示します。

2.2.14 getServerInfo

Syntax:

```
getServerInfo ServerName
```

Description:

指定された管理対象サーバについて、主なサーバプロパティの項目を出力します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

指定された管理対象サーバについて、主なサーバプロパティの項目を表示します。
表示される情報を示します。

Server Name	管理対象サーバの名前です。
Comments	管理対象サーバについての説明です。
Check Connection	接続チェックを実施済みの場合は Completed と表示します。
Group	管理対象サーバが所属するグループ名です。
Connection Type	管理対象サーバとの接続形態です。
Current IP Address	LAN 接続のための現在使用中の管理対象サーバの IP アドレスです。
Failover	片方の IP アドレスへの通信がエラーになった場合にもう一方の IP アドレス 2 に切り替えて通信を続行するフェイルオーバー機能の有効 / 無効を示します。
LAN1 IP Address	LAN 接続のための管理対象サーバの IP アドレスです。
LAN1 Subnet Mask	LAN 接続のための管理対象サーバのサブネットマスクです。
LAN2 IP Address	LAN 接続のための管理対象サーバの予備の IP アドレスです。
LAN2 Subnet Mask	LAN 接続のための管理対象サーバの予備の IP アドレスのサブネットマスクです。
Phone Number	管理対象サーバの電話番号です。
Product Name	管理対象サーバの製品名です。
Serial Number	管理対象サーバの号機番号です。
GUID	管理対象サーバの個体識別用 ID です。
IPMI Version	管理対象サーバの IPMI バージョンです。

2.2.15 getDeviceId

Syntax:

`getDeviceId ServerName`

Description:

管理対象サーバのマネージメントコントローラ情報を取得します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

デバイス ID の表示例を示します。

Device ID	: 20H
Device Rev.	: 1
Fw Rev.	: 00.08
Manufacturer ID	: 119
Product ID	: 2c3H

2.2.16 getGuid

Syntax:

`getGuid ServerName`

Description:

管理対象サーバの GUID を取得します。GUID は個体識別用の ID です。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

GUID を表示します。

2.2.17 getComputerName

Syntax:

`getComputerName ServerName`

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーションで設定されているコンピュータ名を取得します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

コンピュータ名を表示します。表示例を示します。

Computer Name : host1

2.2.18 getProductName

Syntax:

`getProductName ServerName`

Description:

管理対象サーバの製品名と号機番号を取得します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

以下の情報を表示します。

ProductName 管理対象サーバの製品名です。

SerialNumber 管理対象サーバの号機番号です。

2.2.19 getSoftwareInfo

Syntax:

getSoftwareInfo *ServerName*

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent のバージョン、OS のバージョン、BIOS のバージョン、LAN ドライバのバージョンを取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

バージョン情報を表示します。表示例を示します。

Agent	Version : DianaScopeAgent-1.02.00
BIOS	Version : 6.0.0106
OS	Version : Windows 2000 Service Pack 3
LAN driver	Version : 5.0.2175.1

2.2.20 changeShutdownPolicy

Syntax:

changeShutdownPolicy *ServerName KeyName Value*

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent のシャットダウン設定を変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

KeyName

変更するシャットダウン設定項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新しい値を指定します。一覧を参照してください

KeyName	意味	指定方法
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE	スケジュール時の AC-LINK STAYON 自動設定	0:無効, 1:有効
SCH_AC_LINK	AC-LINK 設定値	0 常に OFF 1 以前の DC 状態 2 常に ON
SCH_DC_OFF_ENABLE	OS シャットダウン後の強制 DC OFF	0:無効, 1:有効
SCH_DC_OFF_DELAY	OS シャットダウン後の強制 DC OFF までの時間 (分)	5 - 60

KeyName	意味	指定方法
SCH_SHUTDOWN_ENABLE	運転休止中の DC ON 時 自動シャットダウン	0:無効, 1:有効
SCH_SHUTDOWN_WAIT	OS シャットダウン開始 までの猶予時間 (秒)	20 - 200

2.2.21 getShutdownPolicy

Syntax:

`getShutdownPolicy ServerName`

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent のシャットダウン設定を取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

シャットダウン設定を表示します。詳細は、2.2.20 「changeShutdownPolicy」を参照してください。表示例を示します。

```
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE=0
SCH_AC_LINK=1
SCH_DC_OFF_ENABLE=2
SCH_DC_OFF_DELAY=10
SCH_SHUTDOWN_ENABLE=1
SCH_SHUTDOWN_WAIT=60
```

2.2.22 setPowerRestoreDelay

Syntax:

```
setPowerRestoreDelay ServerName DelayTime [Policy]
```

Description:

管理対象サーバが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。
電源オプション設定では、AC-LINK 設定、および、AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して DC ON する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」が「電源オプション設定」機能をサポートしていない場合は実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

DelayTime

AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。
-1 を指定した場合は、現在の値を変更しません。

Policy

AC-LINK の Policy を設定します。設定可能な値は 3 種類です。

- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 100 | STAY_OFF | AC ON 時、DC OFF 状態になります。 |
| 101 | LAST_STATE | DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。
DC ON 中に AC FF された場合は、AC ON 時、「Delay Time」で設定された時間後に DC ON 状態になります。 |
| 102 | ALWAYS_POWER_ON | AC ON 時、DelayTime option で設定された時間後に DC ON 状態になります。 |

2.2.23 getPowerRestoreDelay

Syntax:

`getPowerRestorDelay ServerName`

Description:

管理対象サーバが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定の内容を取得して表示します。

電源オプション設定の詳細は2.2.22「setPowerRestoreDelay」を参照してください。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

電源オプション設定を表示します。表示例を示します。

POLICY	: LAST_STATE
Power Restore Delay	: 30 sec
Power Restore Delay(default)	: 0 sec

2.2.24 changeBmcInfo

Syntax:

`changeBmcInfo ServerName KeyName Value`

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーション情報を変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

.....
ヒント:

- 認証キーおよびモデム経由通報の通報先パスワードを変更する場合は changeAuthKey コマンドを使用します。2.2.26「changeAuthKey」を参照してください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

KeyName

変更する BMC コンフィグレーション項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新しい値を指定します。一覧を参照してください

KeyName	意味	指定方法
CFG_COMPUTER_NAME	共通：コンピュータ名	15文字まで
CFG_COMMUNITY	共通：コミュニティ名	16文字まで
CFG_ALERT_ALL	共通：通報	0:無効, 1:有効
CFG_POLICY	共通：通報手順	1: 1つの通常先のみ 2:すべての通報先

KeyName	意味	指定方法
CFG_ALERT_LEVEL	共通：通報レベル	0:通報なし 1-6:通報レベル 1-6
CFG_LAN_CONTROL_LAN1	共通：リモート制御 (LAN1)	0:無効, 1:有効
CFG_SERIAL_CONTROL	共通：リモート制御 (WAN/ダイレクト)	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_REDIRECTION	共通：リダイレクション (LAN)	0:無効, 1:有効
CFG_SERIAL_REDIRECTION	共通：リダイレクション (WAN/ダイレクト)	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_CONTROL_LAN2	共通：リモート制御 (LAN2)	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_ALERT_POLICY_LAN	共通：LAN 通報設定 LAN1/LAN2 優先	0: LAN1 優先 1: LAN2 優先
CFG_LAN_ALERT_POLICY_DESTINATION	共通：LAN 通報設定 LAN/通報先 優先	0: LAN Channel 優先 1: 通報先優先
CFG_LAN_IP_LAN1	LAN1:IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_SUBNET_LAN1	LAN1:サブネットマスク	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1	LAN1:デフォルトゲート ウェイ	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1	LAN1: 1 通報先/管理用 PC(1) 通報	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1	LAN1: 1 通報先/管理用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1	LAN1: 1 通報先/管理用 PC(1) 通報	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1	LAN1: 2 次通報先/管理用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1	LAN1: 2 次通報先/管理用 PC(2) 通報	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1	LAN1: 3 次通報先/管理用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1	LAN1:通報リトライ回数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1	LAN1:通報タイムアウト	3 - 30
CFG_LAN_IP_LAN2	LAN2:IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_SUBNET_LAN2	LAN2:サブネットマスク	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_GATEWAY_LAN2	LAN2:デフォルトゲート ウェイ	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN2	LAN2: 1 通報先/管理用 PC(1) 通報	0:無効, 1:有効

KeyName	意味	指定方法
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN2	LAN2: 1 通報先/管理用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN2	LAN2: 1 通報先/管理用 PC(1) 通報	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN2	LAN2: 2 次通報先/管理用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN2	LAN2: 2 次通報先/管理用 PC(2) 通報	0:無効, 1:有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN2	LAN2: 3 次通報先/管理用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN2	LAN2:通報リトライ回数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN2	LAN2:通報タイムアウト	3 - 30
CFG_SERIAL_MODE	WAN/ダイレクト:モード	1:Direct, 2:Modem
CFG_SERIAL_BAUDRATE	WAN/ダイレクト: ボーレート	1:9600bps, 2:19.2Kbps, 3:57.6Kbps, 4:115.2Kbps
CFG_SERIAL_FLOW_CONTROL	WAN/ダイレクト: フロー制御	1:None 2:RTS/CTS, 3:XON/XOFF
CFG_SERIAL_DIAL_MODE	WAN/ダイレクト: ダイヤルモード	1:Pulse, 2:Tone
CFG_SERIAL_INIT	WAN/ダイレクト: 初期化コマンド	48 文字まで
CFG_SERIAL_HANG_UP	WAN/ダイレクト: ハンガアップコマンド	8 文字まで
CFG_SERIAL_DTR_HANG_UP	WAN/ダイレクト: DTR ハンガアップ	0:無効, 1:有効
CFG_SERIAL_ESCAPE_CODE	WAN/ダイレクト: エスケープコード	1 文字
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト: 通報設定 ダイヤルリト ライ回数	0 - 7
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト: 通報設定 ダイヤル間隔	3 - 30
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト: 通報設定 通報リトライ 回数	0 - 7
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト: 通報設定 通報タイムア ウト	60 - 240
CFG_SERIAL_ALERT_PPP1	WAN/ダイレクト: 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 通報	0:無効, 1:有効

KeyName	意味	指定方法
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_ALERT_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 通報	0:無効, 1:有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 時通報先 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_MANAGE1_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 1 次通報先	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_SERIAL_MANAGE2_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 2 次通報先	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_SERIAL_MANAGE3_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 3 次通報先	IP アドレス形式 xxx.xxx.xxx.xxx
CFG_PAGER_MANAGE1_ALERT	ページャ： 1 次通報先 通報	0:無効, 1:有効
CFG_PAGER_MANAGE1_DIAL_NUMBER	ページャ： 1 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MANAGE2_ALERT	ページャ： 2 次通報先 通報	16 文字まで
CFG_PAGER_MANAGE2_DIAL_NUMBER	ページャ： 2 次通報先 電話番号	0:無効, 1:有効
CFG_PAGER_MESSAGE	ページャ： ページャメッセージ	19 文字まで
CFG_PAGER_TIMEOUT	ページャ： ガイドメッセージ待ち時間	16 文字まで

2.2.25 getBmcInfo

Syntax:

```
getBmcInfo ServerName
```

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーション情報を取得します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

BMC コンフィグレーション情報を表示します。詳細は、2.2.24「changeBmcInfo」を参照してください。表示例を示します。

```
CFG_COMPUTER_NAME=Server1
CFG_COMMUNITY=public
CFG_ALERT_ALL=1
CFG_POLICY=1
CFG_ALERT_LEVEL=4
CFG_LAN_REDIRECTION=1
CFG_LAN_CONTROL_LAN1=1
CFG_SERIAL_REDIRECTION=1
CFG_SERIAL_CONTROL=1
CFG_LAN_IP_LAN1=192.168.14.14
CFG_LAN_SUBNET_LAN1=255.255.255.0
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1=192.168.14.1
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1=3
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1=6
CFG_SERIAL_MODE=1
CFG_SERIAL_BAUDRATE=2
CFG_SERIAL_FLOW_CONTROL=2
CFG_SERIAL_DIAL_MODE=1
CFG_SERIAL_INIT=ATE1Q0V1X4&D2&C1S0=0
CFG_SERIAL_HANG_UP=ATH
CFG_SERIAL_DTR_HANG_UP=0
CFG_SERIAL_ESCAPE_CODE=+
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_COUNT=3
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_INTERVAL=60
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_COUNT=3
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_INTERVAL=6
CFG_SERIAL_ALERT_PPP1=0
:
:
```

2.2.26 changeAuthKey

Syntax:

changeAuthKey ServerName OldPassword NewPassword SelectAuthKey

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーション情報に設定されている認証キーまたはモデム経由通報先である PPP サーバのパスワードを変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

.....
ヒント:

- 認証キーを変更した場合は、このコマンドが正常終了した後、setServerProperty コマンドで DianaScope 上に登録している認証キーを変更してください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

OldPassword

現在の認証キーまたはパスワードを入力します。

NewPassword

新しい認証キーまたはパスワードを入力します。

認証キーの場合は 16 文字まで、PPP サーバ パスワードの場合は 6~16 までのパスワードを指定してください。

SelectAuthKey

変更する認証キーまたはパスワードの種類を指定します。

- | | |
|---|----------------------|
| 0 | 認証キー |
| 1 | PPP サーバ 1 次通報先 パスワード |
| 2 | PPP サーバ 2 次通報先 パスワード |

2.2.27 getAgentLog

Syntax:

getAgentLog ServerName

Description:

DianaScope Agent のアプリケーションログを取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

DianaScope Agent のアプリケーションログを表示します。

2.2.28 testAlert

Syntax:

`testAlert ServerName Target`

Description:

管理対象サーバに通報テストを実行させます。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

通報テストの結果は 2.2.29 「getTestAlertStatus」コマンドで確認してください。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Target

通報先を指定します。以下の数値によって通報先の指定を行います。

0:	LAN1 1 次通報先
1:	LAN1 2 次通報先
2:	LAN1 3 次通報先
3:	LAN2 1 次通報先
4:	LAN2 2 次通報先
5:	LAN2 3 次通報先
6:	PPP1 1 次通報先
7:	PPP1 2 次通報先
8:	PPP1 3 次通報先
9:	PPP2 1 次通報先
10:	PPP2 2 次通報先
11:	PPP2 3 次通報先
12:	ページャ 1 次通報先
13:	ページャ 2 次通報先

2.2.29 getTestAlertStatus

Syntax:

`getTestAlertStatus ServerName Target`

Description:

通報テストの実行状態を取得します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Target

状態を取得する通報先を指定します。通報先の指定については 2.2.28 「testAlert」コマンドを参照してください。

Output:

通報テストの実行状態を表示します。実行状態には以下の種類があります。

TEST_UNKNOWN	:不明
TEST_TESTING	:通報中
TEST_SUCCESS	:通報終了(正常終了)
TEST_ABORT	:通報失敗(異常終了)
TEST_CALL_FAILED	:通報失敗(ダイヤルアップ失敗)
TEST_TIMEOUT	:通報失敗(タイムアウト)
TEST_ERROR	:通報失敗(その他エラー)

通報中の場合の表示例を示します。

```
TEST_TESTING
```

2.2.30 getFaultCondition

Syntax:

`getFaultCondition ServerName`

Description:

指定された管理対象サーバの障害状態と、その要因を表示します。
サーバ監視機能や障害メッセージ監視機能で異常を検出した場合に、障害状態が設定されます。
また、接続チェックを実行していない場合も障害状態が設定されます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

障害状態と、その要因を表示します。障害状態は以下の3種類です。

NORMAL	正常
WARNING	管理対象サーバに以下の異常が検出された。 - DC-OFF - ステータス LED 点灯・点滅 - 障害メッセージのコンソールへの出力
ERROR	通信障害発生

2.2.31 resetFaultCondition

Syntax:

`resetFaultCondition ServerName`

Description:

指定された管理対象サーバの障害状態をリセットします。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

2.2.32 getPowerStatus

Syntax:

`getPowerStatus ServerName`

Description:

管理対象サーバの電源状態を取得して表示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

電源状態を表示します。電源状態は以下の2種類です。

DC_ON	パワーオン
DC_OFF	パワーオフ

2.2.33 getStatusLamp

Syntax:

`getStatusLamp ServerName`

Description:

管理対象サーバの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

管理対象サーバの STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の7種類です。

OFF	消灯
GREEN_ON	緑点灯
GREEN_BLINK	緑点滅
AMBER_ON	アンバー点灯
AMBER_BLINK	アンバー点滅
RED_ON	赤点灯
RED_BLINK	赤点滅

2.2.34 getPanelInfo

Syntax:

getPanelInfo *ServerName*

Description:

管理対象サーバのフロントパネル情報として、電源状態、STATUS ランプ、LCD、ウォッチドッグタイマのシステム監視状態、システム通電累積時間を取得して表示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

フロントパネル情報を表示します。表示例を示します。

Power Status	: S0_G0
STATUS Lamp	: GREEN_ON
LCD0	: Prepare To Boot
LCD1	:
Watchdog Status	: STARTED
Watchdog Use	: SMS_OS
Watchdog Interval	: 10 sec
POH	: 262920 min:
:	:

2.2.35 powerOn

Syntax:

powerOn *ServerName* [*u*]

Description:

管理対象サーバの電源を ON にします。

また、管理対象サーバが POWER スイッチによって回復するスリープ状態にある場合は、このコマンドによりスリープ状態から回復できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

u

u を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。リモート FD ブートが設定されている場合は指定された FD イメージを起動します。

2.2.36 powerOff

Syntax:

`powerOff ServerName`

Description:

管理対象サーバの電源を強制的に OFF にします。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

2.2.37 reset

Syntax:

`reset ServerName [u]`

Description:

管理対象サーバを強制的にリセットします。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

u

u を指定すると、リセット後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。リモート FD ブートが設定されている場合は指定された FD イメージを起動します。

2.2.38 powerCycle

Syntax:

`powerCycle ServerName [u]`

Description:

管理対象サーバの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

u

u を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。リモート FD ブートが設定されている場合は指定された FD イメージを起動します。

2.2.39 shutdownOs

Syntax:

`shutdownOs ServerName`

Description:

管理対象サーバ上の OS をシャットダウンします。

LAN 経由で実行する場合は、管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに実行できます。ダイレクト接続またはモデム経由接続で実行する場合は、ESMPRO/ServerAgent に OS シャットダウンを指示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

2.2.40 dumpSwitch

Syntax:

`dumpSwitch ServerName`

Description:

管理対象サーバの DUMP スイッチを入れます。

.....
重要:

- 「管理対象サーバ」上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。「管理対象サーバ」の状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

2.2.41 clearSel

Syntax:

`clearSel ServerName`

Description:

管理対象サーバの SEL 領域をクリアします。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

force

force を指定すると、管理対象サーバ上で ESMPRO/ServerAgent の自動バックアップサービスが動作している場合も、SEL 領域をクリアします。

2.2.42 identifyChassis

Syntax:

`identifyChassis ServerName Period Blink`

Description:

管理対象サーバの筐体識別ランプを点灯させます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Period

点灯時間を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。
点灯時間を 0 すると、筐体識別ランプを消灯できます。

2.2.43 getIpmiInfo

Syntax:

```
getIpmiInfo ServerName readType fileName
```

Description:

IPMI 情報を取得し、指定されたファイル名で保存します。
今回読み込まない種類の情報について、DianaScope が以前に読み込んだ情報を保持している場合は、合わせてファイルに保存します。

ヒント:

- 取得した IPMI 情報保存ファイルは、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」で表示できます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

readType

読み込む情報の種類を指定します。以下の情報が読み込めます。

SEL	システムイベントログ情報(SEL)
SDR	センサ装置情報(SDR)
FRU	保守交換部品情報(FRU)
MC	マネージメントコントローラ情報
ALL	SEL, SDR, FRU, MC の全ての情報

fileName

取得した情報を保存するファイル名(パス名)を表示します。

2.2.44 getSensorList

Syntax:

```
getSensorList ServerName
```

Description:

前回取得した IPMI 情報のセンサ情報(SDR)から現在の状態を取得可能なセンサの一覧を作成して表示します。一覧の先頭に、各センサの SDR レコード ID が表示されます。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

SDR レコード ID とセンサ名の一覧を表示します。表示例を示します。

```
0001h:  Sensor Type=Temperature(Front Panel Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0002h:  Sensor Type=Temperature(Baseboard Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0003h:  Sensor Type=Temperature(Processor 1 Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0004h:  Sensor Type=Temperature(Processor 2 Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0005h:  Sensor Type=Temperature(PwrDstBd Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
:
:
```

2.2.45 getSensorStatus

Syntax:

`getSensorStatus ServerName RecordId`

Description:

管理対象サーバ上の指定されたセンサの状態を取得します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

RecordId

2.2.44 「getSensorList」 コマンドにより表示されたセンサー一覧から、SDR レコード ID を指定します。

Output:

センサの状態を表示します。表示例を示します。

```
Current Value:
  30.00 degrees C
Current Status:
  Normal
Upper non-recoverable Threshold:
  ---
Upper critical Threshold:
  46.00 degrees C (Hysteresis:44.00 degrees C)
Upper non-critical Threshold:
  43.00 degrees C (Hysteresis:41.00 degrees C)
Lower non-critical Threshold:
  3.00 degrees C (Hysteresis:5.00 degrees C)
Lower critical Threshold:
  0.00 degrees C (Hysteresis:2.00 degrees C)
Lower non-recoverable Threshold:
  ---
```

2.2.46 getConsoleLog

Syntax:

`getConsoleLog ServerName`

Description:

管理対象サーバのコンソールログを表示します。

Options:

ServerName

管理対象サーバの名前を指定します。

Output:

コンソールログを表示します。

2.3 通信管理系コマンド

2.3.1 connect

Syntax:

`connect ServerName`

Description:

管理対象サーバとの接続形態に従って、管理対象サーバにダイレクト接続またはモデム経由で接続します。

Options:

`ServerName`

管理対象サーバの名前を指定します。

2.3.2 disconnect

Syntax:

`disconnect`

Description:

現在接続中の回線を切断します。

2.3.3 getConnectionStatus

Syntax:

`getConnectionStatus`

Description:

ダイレクト接続またはモデム経由接続の接続状態と接続中のサーバ名を表示します。

Output:

接続状態を表示します。接続状態には以下の 8 種類があります。

CONNECTING	接続中
CONNECTED	接続完了
DISCONNECTING	切断中
DISCONNECTED	切断完了
CONNECTION_FAILURE	接続失敗
NO_CARRIER	回線切断
BUSY	話中音検出
NO_DIALTONE	ダイヤルトーン未検出

2.4 環境設定系コマンド

2.4.1 setOption

Syntax:

```
setOption OptionName Value
```

Description:

DianaScope Manager の動作を制御する環境設定項目を設定します。

Options:

OptionName

設定するオプションパラメータの名前です。設定可能なオプションの一覧を示します。

OptionName	意味	Value 指定方法	default
BMC_RETRY_COUNT	管理対象サーバ上の BMC との通信のリトライ回数です。	数値	5
BMC_TIMEOUT	管理対象サーバ上の BMC との通信をリトライする間隔を秒単位で表します。	数値	5
BMC_SOURCE_PORT	BMC との通信に使用する UDP ポート番号です。	数値	47117
CUI_NO_RESPONSE_TIMEOUT	リモートコンソール接続が通信のタイムアウトにより切断されるまでの秒数です。	数値	60
HISTORY_LOG_NUMBER_OF_RECORDS	アプリケーションログの最大件数です。	数値	2000
MODEM_PORT_NUMBER	管理サーバにダイレクト接続するときに使用する DianaScope サーバのシリアルポート番号です。	数値	1
MONITORING_ENABLE	サーバの DC 状態と STATUS ランプの異常を監視する機能の有効 / 無効を示します。	1: 有効 0: 無効	有効
MONITORING_AUTO_UPDATE_ENABLE	Web ブラウザ上で DianaScope を操作する際に、サーバ状態の表示を自動更新する機能の有効 / 無効を示します。	1: 有効 0: 無効	有効
MONITORING_AUTO_UPDATE_INTERVAL	Web ブラウザ上で DianaScope を操作する際に、サーバ状態の表示を自動更新する機能の、自動更新間隔を秒単位で表します。	数値	5
RC_POWER_CONTROL_INTERVAL_MILLIS	複数サーバの電源制御を連続して行う際の実行間隔をミリ秒単位で表します。	数値	500

Value

新たに設定する値を指定します。

2.4.2 getOption

Syntax:

`getOption OptionName`

Description:

DianaScope Manager の動作を制御する環境設定項目を取得します。

Options:

OptionName

取得するオプションパラメータの名前です。オプションパラメータの一覧については2.4.1「setOption」を参照してください。

Output:

指定した環境設定項目の値を表示します。

2.4.3 getPermitIpAddrList

Syntax:

`getPermitIpAddrList`

Description:

DianaScope へのログインを許可するログインを許可する IP アドレス範囲の一覧を表示します。

Output:

IP アドレス範囲の一覧を表示します。表示例を示します。

```
No.1: 192.168.0.1 – 192.168.0.254
No.2: 192.168.1.10
No.3: 192.168.2.10
```

2.4.4 isPermitIpAddr

Syntax:

`isPermitIpAddr CheckIpAddr`

Description:

指定した IP アドレスがログイン許可する IP アドレスかどうかを表示します。

Options:

CheckIpAddr

IP アドレスを指定します。

Output:

指定した IP アドレスがログイン許可する IP アドレスかどうかを表示します。

```
OK          許可する
NG          許可しない
```

2.4.5 addPermitIpAddr

Syntax:

`addPermitIpAddr StartIpAddr [EndIpAddr]`

Description:

DianaScope へのログインを許可する IP アドレス範囲を追加します。
設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが DianaScope にログインできます。

.....
ヒント:

- DianaScope Manager を起動している DianaScope サーバ上の Web ブラウザからは、アクセス制限に関わらず、ログインできます。
-

Options:

StartIpAddr

ログインを許可する IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

ログインを許可する IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。この option を省略した場合は StartIpAddr で指定した IP アドレスが単独で追加登録されます。

2.4.6 removePermitIpAddr

Syntax:

`removePermitIpAddr StartIpAddr [EndIpAddr]`

Description:

ログインを許可する IP アドレス範囲を削除します。

Options:

StartIpAddr

開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

終了 IP アドレスを指定します。

2.4.7 clearPermitIpAddr

Syntax:

`clearPermitIpAddr`

Description:

ログインを許可する IP アドレス範囲を全て削除します。

2.5 ユーザ管理系コマンド

2.5.1 createUser

Syntax:

`createUser UserName Password`

Description:

Web ブラウザで DianaScope を利用するためのユーザを登録します。登録されるユーザの権限はオペレータとなります。最大 30 ユーザまで作成することができます。

Options:

UserName

新しいユーザ名を指定します。最大 16 文字までの名前を入力できます。

Password

パスワードを指定します。

2.5.2 removeUser

Syntax:

`removeUser UserName`

Description:

Web ブラウザで DianaScope を利用するためのユーザの登録を削除します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

2.5.3 getUserList

Syntax:

`getUserList`

Description:

登録されているユーザの名前、ユーザ権限の一覧を表示します。種別は Administrator または Operator を示します。

Output:

表示例を示します。

Admin	Administrator
User1	Operator
User2	Operator
:	
:	

2.5.4 setUserProperty

Syntax:

```
setUserProperty UserName PropertyName Value
```

Description:

指定されたユーザのユーザプロパティを設定します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。実行権限の変更はオペレータ種別のユーザについて有効です。

OptionName	意味	Value 指定方法	default
USER_NAME	ユーザ名です。	16文字まで	
USER_PASSWORD	ログインパスワードです。	6~16文字まで	
USER_COMMENT	ユーザに関する説明です。	100文字まで	
UL_POWER_ON	パワーONの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_POWER_OFF	パワーOFFの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_RESET	リセットの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_POWER_CYCLE	パワーサイクルの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_SHUTDOWN	OS シャットダウンの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_DUMP	DUMP スイッチの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_SEL_CLEAR	システムイベントログ領域のクリアの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_BMC_REMOTE	BMC 設定を変更する実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_CONFIG_CREATE	サーバ追加の実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_CONFIG_CHANGE_DELETE	接続設定の編集、サーバ削除の実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_REMOTE_CONSOLE	リモートコンソールの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_SCHEDULE	スケジュール設定の実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効
UL_REMOTE_BATCH	リモートバッチの実行権限の有効/無効を示します。	1: 有効 0: 無効	無効

Value

新たに設定する値を指定します。

2.5.5 getUserProperty

Syntax:

`getUserProperty UserName PropertyName`

Description:

指定されたユーザのユーザプロパティを表示します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

PropertyNameName

取得するプロパティのキー名を指定します。ユーザプロパティの一覧については2.5.4「setUserProperty」を参照してください。ただし、USER_PASSWORD は表示できません。

Output:

指定されたユーザプロパティを表示します。

2.6 その他のコマンド

2.6.1 getApplicationLog

Syntax:

`getApplicationLog [Number]`

Description:

最新のアプリケーションログを、Number で指定した件数表示します。

Options:

Number

表示するログの件数を指定します。この option を省略した場合は、アプリケーションログをすべて表示します。

Output:

アプリケーションログを表示します。アプリケーションログは 1 行に日付・サーバ名・IP アドレス・ユーザ名・イベント内容の順で表示します。

2.6.2 addLicenseKey

Syntax:

`addLicenseKey LicenseKey`

Description:

登録可能な管理対象サーバ数を拡張するためのライセンスキーを登録します。

Options:

LicenseKey

ライセンスキーを指定します。

2.6.3 about

Syntax:

`about`

Description:

DianaScope Manager のバージョン情報を表示します。

Output:

DianaScope Manager のバージョン情報を表示します。

2.6.4 help

Syntax:

help [*CommandName*]

Description:

ヘルプを表示します。CommandName option が指定されていない場合はコマンド一覧を、CommandName option が指定されている場合は指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Options:

CommandName

ヘルプを表示したいコマンド名を入力します。

Output:

コマンド一覧または指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Revision History

1.00	2004/07/11	新規作成
1.01	2004/08/27	実行例の誤記を訂正。 checkConnection コマンドの記載を修正。

